

# 『時事直言』 No.1802 2026年5月1日 国会議員号

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[X(旧 twitter)] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

## 日本の無条件降伏に追い込まれるイラン

そもそもイラン戦争は誰が起こしたのか？

2025年6月のイスラエル軍と米軍の12日間の対イラン空爆を第一次、2026年2月28日の空爆を第二次イラン戦争と言うが、元はと言えば2023年10月7日のハマスによる対イスラエル5,000発のミサイル攻撃と6,000人を超えるハマス軍のイスラエル越境侵攻に始まる。

ネタニヤフ首相はハマスのミサイル攻撃を「奇襲」と呼んだが、「真珠湾攻撃の真実」と同じく奇襲ではない。

ルーズベルト大統領は、大本営が「新高山登れ」(攻撃開始)を大日本帝国海軍に発した数分後に知っていた。

当日に限りコウライ山のレーダーは機能せず、ヒッカム(オアフ島)空軍基地から偵察機は飛ばず、真珠湾では潜水艦防御用の鎖網は解放されたままであった。

さらにこの日に限り戦艦の水兵は離船を禁じられていた。

日本軍の真珠湾攻撃は成功を収め、戦艦に閉じ込められていた米兵2,200名が犠牲となった。

ハマスの対イスラエル攻撃と越境侵攻の情報は諜報部から何度も報告されたが、ネタニヤフは無視、ハマスが越境して来る付近で計画されていたノバ音楽祭は中止されなかった為364名が犠牲になり200名以上がハマスの人質になった。

ネタニヤフがハマス攻撃に対処したことはルーズベルトが真珠湾攻撃にしたことと同じである。

対日開戦に米国民93%が反対であったが真珠湾奇襲後は賛成が90%になった。

ハマス奇襲でイスラエル国民の90%以上が対イラン戦争支持になり、今なお高支持率が続いている。

日本の敗戦が確実になったところでトルーマンは広島・長崎の原爆投下で止めを刺した。

ヘグセス国防長官は、「イランが弱り切ったところで無残に殺してやる」と、まるで、死人の足を引っ張るような発言をしている。

アメリカの戦争方程式は永遠に変わらない！

### 大好評配信中！増田俊男の「インターネット目からウロコの増田塾」

#### いつでも繰り返し何度でも視聴可能！

皆様からのご要望にお答えし、「株式指南」を継続的に配信するコンテンツをスタートします。是非、この機会にお申し込みください。

【配信予定内容】○損をさせない「早朝株式指南」○本日の世界政治・経済情勢の裏(真実)  
★いつでも繰り返し何度でも視聴可能。ご視聴方法：PC・スマートフォン・タブレット ※Youtubeの視聴環境が必要となります。詳しいご案内、お申込みについてはマスタU.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX：03-3956-1313、HP：<http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタU.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX：03-3956-1313) までお知らせ下さい。